

三綱行實圖

孝子之部上

卷

特別

9

817

1

7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6

特



門口
號
卷

三經行實圖序

天下の達道五つありて而も三經其首也
 居まりて室より經綸の大切しして而も
 万化の本源あり若多諸と有し人より稽
 ふるも帝舜博しして五典と微し成
 湯肇りて人紀と修の周家民も五教
 と重くして而も三物と賓興す帝王
 治りて乃先務知めんき也已宣徳
 辛亥夏我

主上殿下進しと命じて若曰く三代



の治る人倫と明くする所以あり後世
 教化陵夷去る百姓親しまず志は父の
 夫婦此大倫率すも性も薄く共せり同卓
 日昧くく而も常も薄く共せり同卓
 行高節ゆりて習俗のより移れし
 て而も人の欽徳と聳やうりの亦多し
 予その特り異なる者として畚贊と作
 為して諸と中外の頌をんと欲す庶幾
 る愚夫愚婦もみを得て以て觀感して
 而も興起し易きとたはすなり亦民と

他俗とたぐひの一通ありするりし集賢
 殿副提學 既僕循

命に編摩の事と掌とじ是
 於て古今書傳の載ありて我東方の
 孝子忠臣烈女の卓然に
 て述へべきもの各百有十人と實と
 日紀し飛ちを後し畚して而も
 詩をうくる考ふるハすなり謹

上宗文皇帝ノ賜トル此孝順事實

の詩ト録シテ高祖既溥ガ

撰下ル此孝行録の中名儒

李齊賢ガ賛トル餘ハ予モ亦チ

輔目ト令シテ予モ亦チ忠臣烈女

女ノ功モ亦チ文臣ト令シテ予モ亦チ忠臣烈女

母ノ編訖アリ後三經實品ト

賜ム鑄字ノ所ト令シ梓木銀てあぐ

命ト其卷端ノ序ヤ既採竊ム

惟ム何レ君親夫婦ノ倫忠孝節義の

道ニシテ予モ亦チ降東秉彛人ノの同じ

ミニ天地ノ始メト窮メテ而シ俱ニ

シテ天地ノ終メト成極メテ而シ墜ル

ト同し堯舜此仁トシテ而シ

足ラズ也次然シ先王ノ所ニ五典克

從フル民ヲ和睦シテ而シ比屋

封じつるニ三代ノ以後治日常

少クシテ乱賊ノ徒ノ跡トモト接ス

者良君上導リ養フもの如何ト

孝子伝

三

みよ由耳今我

主上殿下神聖の資を以て君師の

道と爲し功成治定あり万民こと一

張て而て經常と扶植し世道と維

持する所を以て本とすすよき名教

関する所の爲れを講究高確やと云

しよき著して藝典と云及と

躬に於てはこれより得所のありを化す

一所以の者既其至と極め具起の方と

慮りてはこれより爲るありと云

すよりちこれ書といくらて度く民間に布

賢愚貴賤孩童婦女ともよきと云

く觀るも習はしむるも一ならず

詩と諷詠して情性と體り其面と披

き玩あそび多まうて形容と相いなり

歆羨嘆慕勸勉激励してまうてその

同く勉むるの善心と感發し多まう

て職分は當りみへて盡さずと云

はし蓋帝王典と教し人へと敷の

義と一揆と云てまうて條理密と云

隆平... 家盡く存順... 蓋乃長南... 白華の什漢... 廣汝墳の... 化の羨當... 二南... 王業の固... 寶子永く万世... けふめらの... 益

哀哀... 宣德七年六月... 日奉列大夫集賢殿應教... 三經行實目錄... 文憲... 文選... 食討官... 日... 崔... 文...

孝子上

閔損單衣
 楊香檻虎
 陳氏養姑
 薛包洒掃
 黃香扇枕
 董永貸錢

子路負米
 臯魚道哭
 江革巨孝
 孝娥抱屍
 下蘭刻木
 郭巨埋子

三經行實孝子圖上

閔損單衣

魯國の閔換ハ孔子ノ弟子ナリ也母死
 して三日して食ハズ後ノ書ト傳フモテ二人ノ
 子トシテ之ヲ継母トシテ之ヲ養フ也
 閔換ハ孔子ノ弟子ナリ也母死
 して三日して食ハズ後ノ書ト傳フモテ二人ノ
 子トシテ之ヲ継母トシテ之ヲ養フ也
 閔換ハ孔子ノ弟子ナリ也母死
 して三日して食ハズ後ノ書ト傳フモテ二人ノ
 子トシテ之ヲ継母トシテ之ヲ養フ也
 閔換ハ孔子ノ弟子ナリ也母死
 して三日して食ハズ後ノ書ト傳フモテ二人ノ
 子トシテ之ヲ継母トシテ之ヲ養フ也

孝子上

六



未^いだ^だら^らの^の女^め兒^こ凍^こえ^るる^る。蓋^う祭^ぎ綿^ま糸^{いと}一^{ひと}つ
 わ^わず。又^{また}母^{はは}と^と女^め兒^こを^を逐^おは^はす。ひ^ひど^どら^らの^の女^め兒^こ
 亦^{また}母^{はは}を^を母^{はは}の^の所^{ところ}に^にお^おき^き。一^{ひと}子^こ独^{ひと}り^{ひと}に^に
 あり^あり^りて^ては^はら^らの^の女^め兒^こを^をさ^さす。孝^{かう}子^しと^とい^いふ^ふ
 人^{ひと}。又^{また}感^{かん}を^をさ^さす。孝^{かう}子^しと^とい^いふ^ふ
 関^{かん}子^し

孝子一

関根單衣

子路負米 しろうふぶい

子路ハ孔子ノ弟子ナリ姓ハ仲ノ由
 由ト云親ヲつらくして奉り其の長
 とまじき事としてけしのみ藜藿ノ莖と
 して食してはけし日完りけしひはけし
 かりたり人よしとけしひはけし百里のわ
 負てその勞とさうして母をてけしひは
 親母のてけしひはけしひは楚と
 あふひはけしひはけしひは楚と
 と車はけしひはけしひは楚と
 てけしひはけしひは楚と
 粟百石とつてけしひは楚と
 つてけしひはけしひは楚と
 物をとつてけしひはけしひは楚と
 けしひはけしひはけしひは楚と
 けしひはけしひはけしひは楚と
 つてけしひはけしひは楚と
 半後百里のわとさび夢はけしひは楚と
 けしひはけしひはけしひは楚と

七幸さく苦くはあつるへまは今いまやうは大方たうほう
ありてよろづのりもれまはむねのむねに
つまはらうと親おや母ははをさへて人ひとをさへてま
ほしとれぬるもつらき事ことなり
まげさうもつらき事ことなり孔子こうしのまはらうと
のほくゆ也ゆのりなむなむはまらうと
ほし死し事ことはあつるへまは今いまやうは大方たうほう
あつるへまは今いまやうは大方たうほう

詩し曰い家かはうとて藜れい藿くわくらうとて能能

免めん頭とう米まい也や日に供くす困くわん苦く入い中ちゆうそのみ

孔こう門もん考こう成せいくやうとて仲ちゆう由ゆう千せん古こ

高こう門もんとて仲ちゆう由ゆう千せん古こ

二に四し一いつ綱かう列りよく鼎てい累らい重じゆう入い網かう富ふ貴きけり

日に々々様やう契けいとて日に々々死し思しれ秀しゆ

とけくす門もんの志し誓ちか喚えん人ひと日に属じやくす



子路負米

孝子ノヒ

十

楊香楹虎

魯の楊香ハ南郷縣ト云々。乃ち楊豊ト云
 人のむじまちり年づつ々たるのこころ
 きてつらひさ四時及すはゆひのこころ
 さらばおまきうき虎さうりてその楊香と
 くらんとす楊香。こころはさうちおまきれ
 ちげんまされともさへやほはらう。虎
 乃ちあうくく引くも向ひまのさ
 たらとさうちや通じらんこ入虎ちり
 ちしむれはさうこころ命をすうちて
 ちしむれはさうこころ命をすうちて

乃ち守孟肇之と云々。乃ち半一と云々。乃ち
 特の半一乃ちおまきれすうちら楊香乃ち半一
 つらつら人てこころはさうちて
 詩曰又虎噬つらつら心款と捨ち也。
 乃ちそのつらつら頃刻の間乃ちめり。虎頭
 楹持しつらつら死つらつららんや嚴父
 とせせ久保と云々。乃ちおまきれす
 又曰幼齡躰弱気軒昂。又命ト云々。虎

楊香監虎



孝子上ノ上

十三

とてをうききし青史を成る科と
とてをうきき。今日了ぬては
香と道と成

孝子上ノ上

十三



梟魚哭道

三つ三つと心。親やまゝと成まゝす。か乃
 蒼と伊人泣つてさあに枯くさあづ
 路のけりり子死す嗟く卓行素まろ
 ねんやうぬ

三つ三つと心

十四

十五

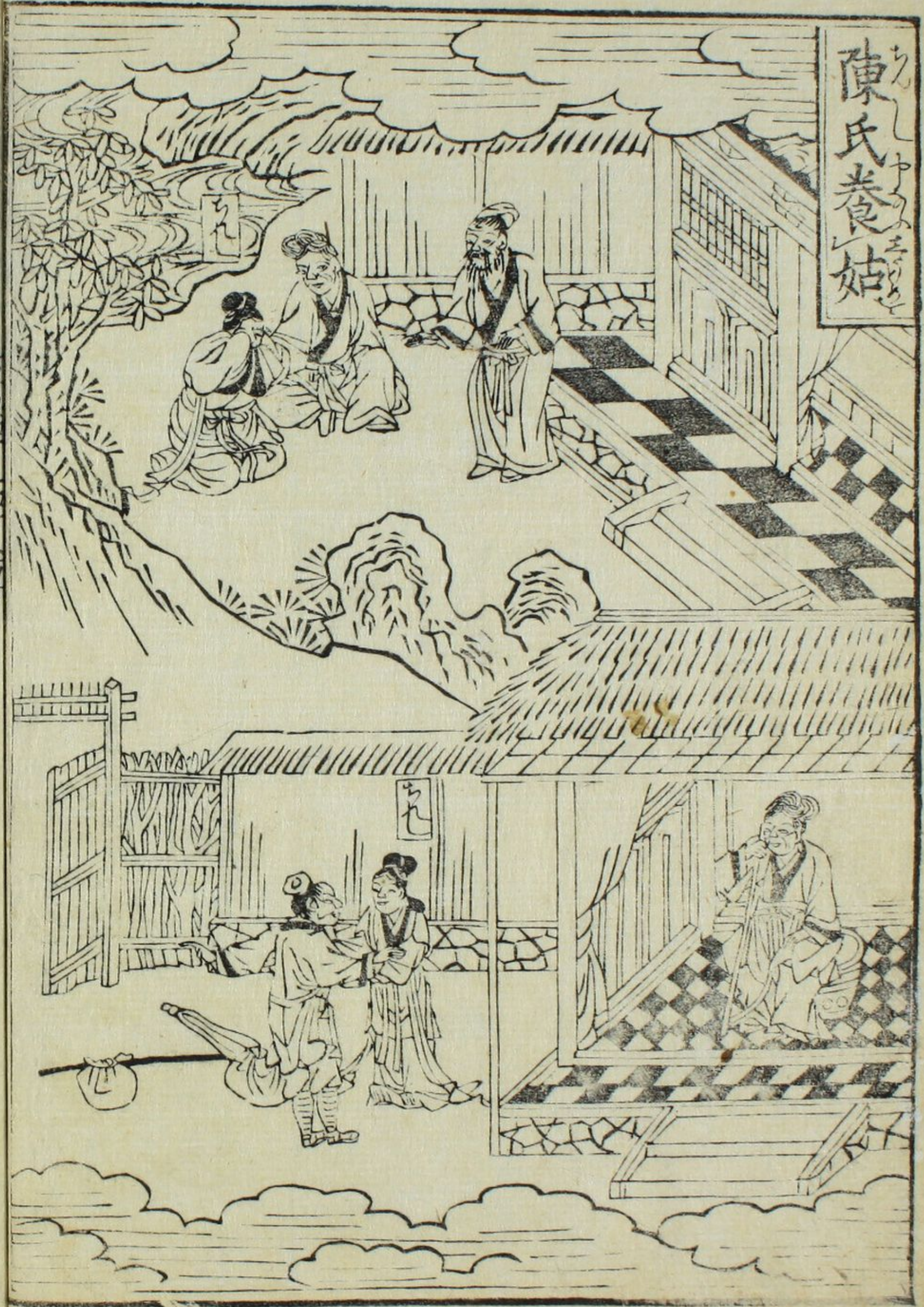
孝人くもりて人々を驚かす事一と
 たりけされども陳氏はしほもくらす
 親母をうりてつとくわがま家とわす
 じりし時わが老母とつをけりしは
 くもりけり人乃親をわづりや
 その親つま今つらも我がとくも
 てこの老母とすつらとあは信あ
 ず屋くく哉とく入ていたあはつ
 孝人すももくもく母とす父母
 おきれてつとてつとてつとて
 孝人二十八年入てつとてつと
 孝人田島家とてつとつとつと
 つとつとつとつとつとつとつと
 孝人入て陳善婦と名をけり
 賛曰良人と成て征す。わが老母と
 属す。力の強して争す。言入てつと
 死よ之と地あやあやとつと
 母葬と厚し。百世に名成稱じて
 陳善婦と云

孝子伝

十六

陳氏養姑

孝子上ノ上



江革目録

漢ノ江革ハ陳留陳留と云ふところの人なりとし
りきざりして父母を養はれりて下下おおし
むるも民はもろくもやそくやすさるゝなま
江革も母を養はるる國ともも書つらつらし
つらむらされて親のつらむつらつらの葉と
むられて親を養はるるやり歎歎み入つらつらの
うらむらむらむらむらむらむらむらむら
もむらむらむらむらむらむらむらむら
うらむらむらむらむらむらむらむらむら

孝子上ノ上

十八

十七

一
きりく成部守こま成あつ人く傳とつじ
て服とともめ成元未年けりみり
米十石と流りて知終りせり

詩曰至孝由来鬼神とてこふ強暴
もあつとつてもまふ成あつてに到頭
母子さへはけあつ。天地けりる應
まふ善人うさつるのや

又曰平生の行孝朝廷とてこふ廢錫
思ふとつて顛榮く沐す。青史移り江
巨孝と称す古人多難くもさる成あつて

すべし

賛も曰江華母と負て難と異郷ものなる。
賊くあつて款成あつ。賊傷すはあつ。
り成あつはけしやあつと備まはあつ。
便身あつものさつてくさるへさ成あつ。
あつや

江革巨孝

孝子上ノ上



孝子上ノ上

二一

二一

薛苞ちりく形く善く被_レ妻入るものゝも
そ一老_らる_る所_をを_るか_らへ_らる_らる_るそ_らる_ら
や_らる_らる_らの_らと_ら後_には_る中_には_る入_らは_るる_ら
家_にも_らる_らる_らも_らる_らる_らる_らは_るか_らく_るも_ら
そ_らる_らの_ら後_には_る中_には_る入_らは_るる_ら
て_らる_らと_らは_る中_には_る入_らは_るる_ら
力_を練_らと_らら_るる_らる_らの_ら安_ら帝_にこ_らら_る
そ_らる_らら_るら_るら_るら_るら_るら_るら_るら_るら_る
そ_らる_らら_るら_るら_るら_るら_るら_るら_るら_るら_る
そ_らる_らら_るら_るら_るら_るら_るら_るら_るら_るら_る
そ_らる_らら_るら_るら_るら_るら_るら_るら_るら_るら_る
そ_らる_らら_るら_るら_るら_るら_るら_るら_るら_るら_る

忠_ら萃_らる_らる_らの_らハ_る也_の後_にハ_るセ_て行_らす
乃_らち_て日_に祥_かや_ら飯_を
詩曰_く親_心ハ_るえ_るる_らは_る淨_ら泗_らら_るの_ら晨_ら昏_ら灑_ら
掃_らま_るく_ら門_に闕_とゆ_らる_ら積_ら誠_ら感_ら得_らて_る親_ら顔_を
そ_らる_らら_るら_るら_るら_るら_るら_るら_るら_るら_るら_るら_る
又_て曰_く財_産ハ_る中_に分_らる_らる_らる_ら田_に庄_と讓_ら考_ら義_ら全_ら世_を
罕_ら如_ら是_らら_る佳_ら名_ら聞_ら闕_ら下_ら侍_ら中_に有_ら命_ら公_ら車_にに_る飯_を
賛_ら曰_く父_を号_ら兎_とら_るも_ら多_らハ_る繼_ら室_をも_らら_る兎_の至_ら誠_を
が_らら_るら_るら_る其_を失_らと_ら梅_に包_と也_の飯_をと_ら未_ら遠_を
初_めも_ら恐_らひ_す慚_ら而_もこれ_と入_らす終_ら始_ら如_ら一_の

薛苞
二二三



数
百
年
の
史

二
五
四



薛
包
洒
掃

二
五
五

二
五
五

秀娥抱屍

孝女曹娥六會稽と云と云此人なり

とて野と云て巫祝の職にあり鬼神と

云ふははらふか此と云と云漢安二年

五月八日は婆娑神と云多神と云りんが

と云母の事なりと云江と云れは

てはよのちなりと云母の事なりと云

流と云くはと云わりの事なりと云

母の事なりと云母の事なりと云

てはよのちなりと云母の事なりと云

死骸と云らなりと云母の事なりと云

母の曹娥と云すなりと云母の事なりと云

と云と云と云と云と云と云と云と云

母の事なりと云母の事なりと云

江の事なりと云母の事なりと云

母の事なりと云母の事なりと云

母の事なりと云母の事なりと云

母の事なりと云母の事なりと云

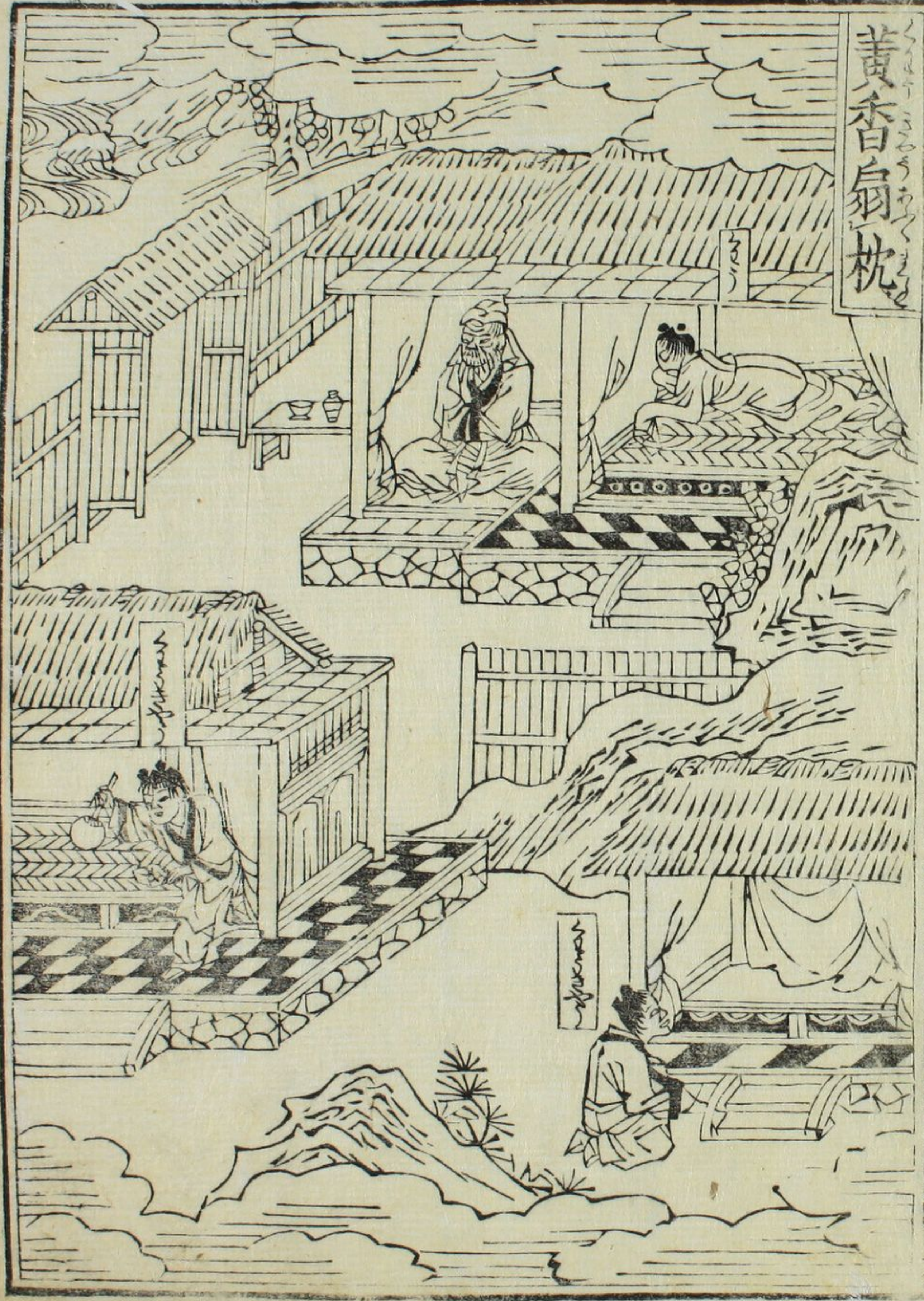
孝子の... 厚く... 碑... 泣... 壟... 葬日... 舟... 曹娥... 哀... 有七日... 投江抱屍... 宿... 穿... 壊... 万...

曹娥抱屍



黄香扇枕

後乃美香^{うしろ}ハ九^くさつ^つつ^つて母^{はは}瓜^{うり}てあひ^あはじ
 こゆ^こひ^ひけ^けこ^こま^まふ^ふ多^た実^じを^をう^うけ^けづ^づえ
 う^うま^まそ^そ今^{いま}す^すご^ご止^とり^りし^し里^{さと}人^{ひと}ま^まは^は
 わ^われ^れこ^こま^まの^のい^いし^しを^を取^とり^りき^きく^く壽^{とし}あ^ある^るま^まを^を
 感^かじ^じ侍^しり^りち^ちの^の神^{かみ}の^のれ^れは^はみ^み成^{なり}や^やあ^あひ^ひて^てま^まづ^づ
 け^けふ^ふ阪^{はん}車^{ぐるま}し^しら^らの^の日^ひつ^つる^るま^まを^をう^うり^りに^に決^{けつ}ま^まる^る
 され^{され}を^をす^すま^まり^りち^ちを^をみ^みや^やを^をみ^みく^く涼^{すず}し^しめ^めを^を
 みる^{みる}も^もあ^あり^りき^きる^るも^もす^すも^もあ^あり^りき^きる^るの^の地^ちは^はら^らの^の
 神^{かみ}と^とい^いふ^ふの^のい^いは^はま^まま^まま^まま^まま^まま^まま^まま^まま^まま^まま^ま
 劉^{りゅう}護^ごと^とい^いふ^ふ人^{ひと}れ^れと^とい^いふ^ふこ^この^のあ^あり^りき^き
 わ^わき^きの^のあり^りこ^こま^まの^のり^り美^み香^{かう}が^が名^なを^を下^{した}に^にし^して^て
 あ^あの^の高^{かう}書^{しよ}今^{いま}の^のま^まま^まま^まま^まま^まま^まま^まま^まま^ま
 け^けら^らの^のあ^あり^りき^きる^るも^もす^すも^もあ^あり^りき^きる^るの^の子^こ孫^{そん}
 う^うり^りあ^あり^りて^て美^み香^{かう}う^うの^の子^こ美^み瓊^{じやう}の^の子^こ孫^{そん}
 へ^へら^らの^のあ^あり^りき^きる^るも^もす^すも^もあ^あり^りき^きる^るの^の子^こ孫^{そん}
 詩^しの^のあ^あり^りき^きる^るも^もす^すも^もあ^あり^りき^きる^るの^の子^こ孫^{そん}
 年^{ねん}の^のあ^あり^りき^きる^るも^もす^すも^もあ^あり^りき^きる^るの^の子^こ孫^{そん}
 ま^まの^のあ^あり^りき^きる^るも^もす^すも^もあ^あり^りき^きる^るの^の子^こ孫^{そん}
 ま^まの^のあ^あり^りき^きる^るも^もす^すも^もあ^あり^りき^きる^るの^の子^こ孫^{そん}
 誠^{せい}心^{しん}一^{いつ}念^{ねん}に^にあ^あり^りき^きる^るも^もす^すも^もあ^あり^りき^きる^るの^の子^こ孫^{そん}



黄香扇枕

又つゝ江^が島の^あ美童^{みどう}り^りの^り子^こ異^い
 あり。その^りみ^みま^まぐ^ぐ子^こ道^{みち}あ^あく^く母^{はは}も^もり^り
 形^{かたち}と。累^{かさね}官^{くわん}吏^りの^り尚^{しょう}書^{しょ}令^{れい}の^り所^{ところ}。秀^{ひで}
 感^{かん}く^く後^ご嗣^しと^と々^々昌^{さう}あ^あ々^々

孝行上

十一



又曰 孝思の精微 杳冥の間 木像しく
 戚くはるる 誰人か 漢の丁宗と
 て至行と稱す。誰人か 漢の丁宗と
 賛曰 哀しくはるる 丁宗と稱す。誰人か
 人より我れを 孝と稱す。誰人か 漢の丁宗と
 尚し。こころを 孝と稱す。誰人か 漢の丁宗と
 晨昏定省 して 誠敬とけり。噫
 かの人 孝の親 孝と稱す。誰人か 漢の丁宗と
 孝と稱す。孝と稱す。誰人か 漢の丁宗と

董永貸錢

後乃董永とうえいがもと來まよとまゝとまら此こ人ひとのあ事こと

 くとみ成なりやしむり父ちちとて廿年にじゅうねんにむり

 てずああくくありあれとまゝとまらりり

 ことこと葬禮さうらいよりよりああへへささううじじははすすらら

 富貴ふきのあ家いえににゆゆささてて成なり換物かひもののと道みちを

 後のちにありああへへららああひひててこのこ家いえのと被官ひくわん

 とあへへししててああひひににああははすすてて成なり

 ちとちとらら後のちめめのとああひひににああははすすてて成なり

 むむととらら毎まいづづくくああららばばここのこままににああははすすてて成なり

 ままととらら毎まいづづくくああららばばここのこままににああははすすてて成なり

 母ははににああははすすてて成なり

 ちちととらら毎まいづづくくああららばばここのこままににああははすすてて成なり

 ちちととらら毎まいづづくくああららばばここのこままににああははすすてて成なり

 ちちととらら毎まいづづくくああららばばここのこままににああははすすてて成なり

 ちちととらら毎まいづづくくああららばばここのこままににああははすすてて成なり

 ちちととらら毎まいづづくくああららばばここのこままににああははすすてて成なり

 ちちととらら毎まいづづくくああららばばここのこままににああははすすてて成なり

 ちちととらら毎まいづづくくああららばばここのこままににああははすすてて成なり

 ちちととらら毎まいづづくくああららばばここのこままににああははすすてて成なり

涼くしうゝももたふもなすけはらぬとね
 うらやまをいぢりてねま^とふしうと
 かくた^つとゝと^しうと^ると^ると^ると^ると
 縁^{せう}の^し葉^もの^たひ^をと^りて^まん^ずり^のま^に
 縁^のと^りた^りや^とと^書と^りて^りと^りと^りと^り
 しうと^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^り
 むと^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^り
 け^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^り
 け^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^り
 い^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^り
 け^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^り
 け^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^り
 け^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^り
 け^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^り
 け^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^り
 け^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^り
 け^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^り
 け^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^り
 け^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^りり^り

せんきん日やすちらの織きりひめありきりて此
くさぬまんと天あめこぼれんじとれよりほし
てきりていよの成つてうりてきりてきりて
あまの母わづらひはるり人ひとふもつてきりて
がかりくといんじきり

詩しの 後ご一いっ系けいとるくまのあやとさうの
お氏おぢ様さまと傭ようと成なて主人しゆじんの報かたす。あはる
屋やんや孝かういつては感かん格かくす。あはる。天あめ織きりや
どうりしてお入まり笑わらむもきりて

又また心こころ念ねんのわがらちる感かんす。あはる織きり女によ哉や
あまの母ははをて後ごとくし心こころ。一月いちげつ鎌かまと足あしと
之これ下したせ。飄ひらをとてお成ならうとて毛けがらる。

のちの
賛さん曰いふ 藥やくこころ考かうふ。十じゅう来らいの董とう氏し。傭よう力りき
あまの母ははをて後ごとくし心こころ。一月いちげつ鎌かまと足あしと
之これ下したせ。飄ひらをとてお成ならうとて毛けがらる。
あまの母ははをて後ごとくし心こころ。一月いちげつ鎌かまと足あしと
之これ下したせ。飄ひらをとてお成ならうとて毛けがらる。
あまの母ははをて後ごとくし心こころ。一月いちげつ鎌かまと足あしと
之これ下したせ。飄ひらをとてお成ならうとて毛けがらる。

如



北五

北五



董永貸錢

州四

郭巨埋子



えどさうさうりありのこは成らうて妻はうり
 我もさうさうすまがは少つさえつごといか
 ちり思ひのまも母成やうひをまうり
 ち下にうあけはるをえさり
 賛曰郭巨あはれ也。親と年あまかた場す。
 母のまのこを孫とめをれそ。子のまを合と
 ころ。謂児をわく。恐くハ母或ハ飢せ。
 妻成らひて地成り。奉てこを掘りんと
 す。金入満り。金とえさり。上よ刻書あり。天者
 り。郭巨人。諸とらふ。こをうれと

